



輝け！北っ子！

文責：校長 大内雅之



1学期終了 ～有意義な夏休みに～

今日で1学期が終了しました。保護者の皆様には大変お世話になりました。そして、子ども達を無事に保護者の皆様のもとにかえせることを少しホッとしています。1学期の登校日の数は「56日」本来ですと「72日」の予定でしたから、1学期の終了日が伸びたとは言え、随分と日数的には短くなりました。しかし、中身的には……。こんなにも大変な1学期はこれまでなかったのではないのかというほど大変なものでした。すべては「新型コロナウイルス感染症拡大防止対応」。今まで経験したことのない、

見えないそして、正解がわからない未知なるものへの対応でした。学校の長期休業、マスク、手洗い、うがいはもちろん、各種行事の延期・中止、3密の回避、ソーシャルディスタンス、消毒作業、長期にわたる家庭での学習……。対応をあげればきりがありません。しかし、こんななかでも、ご家族を含め、誰一人として「新型コロナウイルス感染症」にかからなかったことをはじめ、子ども達は本当によく頑張りました。（もちろん、子ども達の陰には、子ども達を支える保護者の皆さんの頑張りがあるとは言うまでもありません。感謝申し上げます。）新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて様々な制約のある中でも、学校での約束・新たな生活様式を守り、その中でもしっかりと学校での1学期の学習・生活を送ってくれたことそのものが価値ある頑張りだと思っています。もっと言えば、「命をつないでいること」「生きていること」そのものが一番の頑張りだとも思っています。

本日のテレビ放送による終業式では、1学期について振り返った後、夏休みに向けて子ども達と約束を交わしました。約束は単純ですが、大変重いものです。それは、

「何があっても死なないこと」

夏休みは楽しい期間であるべきにもかかわらず、毎年繰り返される子どもの事故。交通事故、海や川・山の事故、火事、不審者……。ちょっとした心の隙・ゆるみが大きな事故に結びついてしまうことを話しました。そして、事故に遭いたい、死にたいなんて思っていた子は誰もいなかったことを話しました。「おはよう」といったら必ず「おやすみ」、「行ってきます」といったら「ただいま」という当たり前の日常を大事にすることを話しました。当たり前と思っていることは実は当たり前ではなく、突然なくなってしまうことだってありえることを伝えました。

「後悔先に立たず」

教師が、保護者が、子どもを取り巻くすべての大人がアンテナを高くし、配慮すべきことはしっかりと配慮することで防げることは何としても防がなければなりません。例年より、短い夏休みにはなりますが、リフレッシュするなど有意義な夏休みになることを期待しています。どうぞよろしくお願ひします。



1学期間、大変お世話になりました。有意義な夏休みを……。